

**授業概要**

上流階級の白人の男性たちの対極におかれてきた黒人、女性、労働者など、文学に描かれたマイノリティの姿について考察してゆく。アメリカの作家エドガー・アラン・ポーを中心に、その他にも歴史的名作と評価される英語圏のゴシック小説を読み、分析することで、英語圏の作家における性差・人種観などを理解できるように講義する。

**授業計画**

第 1 回	イントロダクションー文学とは何か
第 2 回	『ホーンテッド・マンション』はなぜマンションなのかーディズニースーランドの幽霊屋敷
第 3 回	文学の現代性ー現代におけるエドガー・アラン・ポー
第 4 回	現代に蘇る文学ーハーマン・メルヴィル『白鯨』と『ジョーズ』
第 5 回	エドガー・アラン・ポー論(1)ー「黒猫」を読む
第 6 回	エドガー・アラン・ポー論(2)ー「モルグ街の殺人」から『キングコング』へ
第 7 回	ロリータの系譜ーポー、キャロル、ナボコフ
第 8 回	魔女と文学ーナサニエル・ホーソーン『緋文字』を読む
第 9 回	文学における人造人間ー『フランケンシュタイン』から『ブレードランナー』へ
第 10 回	恐竜文学論ーレイ・ブラッドベリ「霧笛」
第 11 回	H・P・ラヴクラフト論(1)ークトゥルフ神話における他者
第 12 回	H・P・ラヴクラフト論(2)ー優生学と人種差別
第 13 回	文学における疫病ーブラム・ストーカーの『ドラキュラ』
第 14 回	読書終焉の世界ーレイ・ブラッドベリ『華氏 416 度』
第 15 回	現代ベストセラー作家たちースティーヴン・キング『It』『スタンドバイミー』
第 16 回	定期試験

**到達目標**

- ・学生が英語圏文学における他者を考察することで、これらの作品が書かれた時代の特徴、地域社会の文化や歴史を理解することができる。
- ・学生が文学を歴史の反映として学習し、異文化理解や中学校及び高等学校における外国語科の授業のための教養の土台を養成することができる。

**履修上の注意**

楽しい授業にしてゆきたいので、積極的な参加を望みたい。授業時にはコメントペーパーを配布するので、授業の終わりにできるだけ多く質問や感想や意見を書いて提出すること。資料を多く配布するのでファイルを持参のこと。普段から関心をもって本を読むように心がけてもらいたい。

**予習・復習**

前もって配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再び読み直してほしい。

**評価方法**

学期末試験（60%）、コメントペーパー（40%）による評価。

**テキスト**

毎回授業で資料を配布、また参考文献については適宜指定する。

**授業概要**

この授業では、この授業では、ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の作品の中から、後期のロマンス劇のいくつかについて考えていく。授業では、翻訳を用いて、テキストを精読していくと同時に、原作の時代背景に忠実な上演や設定を変えた上演をはじめ、設定を変えた上演、他ジャンルへのアダプテーションなど、様々な上演資料なども参照しながら、作品の理解を深めていく。

**授業計画**

第 1 回	イントロダクション
第 2 回	シェイクスピアのロマンス劇『冬物語』①
第 3 回	シェイクスピアのロマンス劇『冬物語』②
第 4 回	シェイクスピアのロマンス劇『冬物語』③
第 5 回	シェイクスピアのロマンス劇『冬物語』④
第 6 回	シェイクスピアのロマンス劇『冬物語』⑤
第 7 回	シェイクスピアのロマンス劇『冬物語』のさまざまな上演①
第 8 回	シェイクスピアのロマンス劇『冬物語』のさまざまな上演②
第 9 回	シェイクスピアのロマンス劇『ペリクリーズ』①
第 10 回	シェイクスピアのロマンス劇『ペリクリーズ』②
第 11 回	シェイクスピアのロマンス劇『ペリクリーズ』③
第 12 回	シェイクスピアのロマンス劇『ペリクリーズ』④
第 13 回	シェイクスピアのロマンス劇『ペリクリーズ』⑤
第 14 回	シェイクスピアのロマンス劇『ペリクリーズ』と古典作品
第 15 回	これまでのまとめとフィードバック
第 16 回	

**到達目標**

古典文学作品の持つ可能性をさまざまな観点からより深く理解するため、以下のことを目標とする。

- ・ 古典作品の成立過程の歴史的背景や文化的背景を理解できる。
- ・ 戯曲の台詞をさまざまなコンテキストに即して読むことができる。
- ・ 作品が上演された時代についての知識を得ることができる。
- ・ 古典作品が現代において上演される際の演出可能性を理解できる。
- ・ 古典作品の改作が上演される際の様々なジャンルを理解できる。

**履修上の注意**

講義科目ではあるが、文学作品の読み方を身につけ、自分で読むという意味では、実習科目である。授業で使用するテキストは、翻訳を購入すること。また、授業中の携帯電話、スマートフォンなどの使用は厳禁とする。

**予習・復習**

予習として、テキストとして購入した翻訳を、丁寧に読むこと。また、復習として、授業で学んだことを活かして再読すること。またセリフは音読してみるとよい。さらに、授業で取り上げた毎回のテーマについて、自ら調べ、理解を深めるよう復習してほしい。

**評価方法**

予習復習の程度、授業への参加度、リアクション・ペーパー、確認テストなどを点数化し、学期末の筆記試験と合わせて、総合的に評価する。学期末試験50%、各種課題25%、授業への取り組み25%。

**テキスト**

シェイクスピア著、松岡和子訳『冬物語』（ちくま文庫）(ISBN 978-4-480-03318-5)  
他作品の翻訳、参考図書については、授業中に、随時指示する。